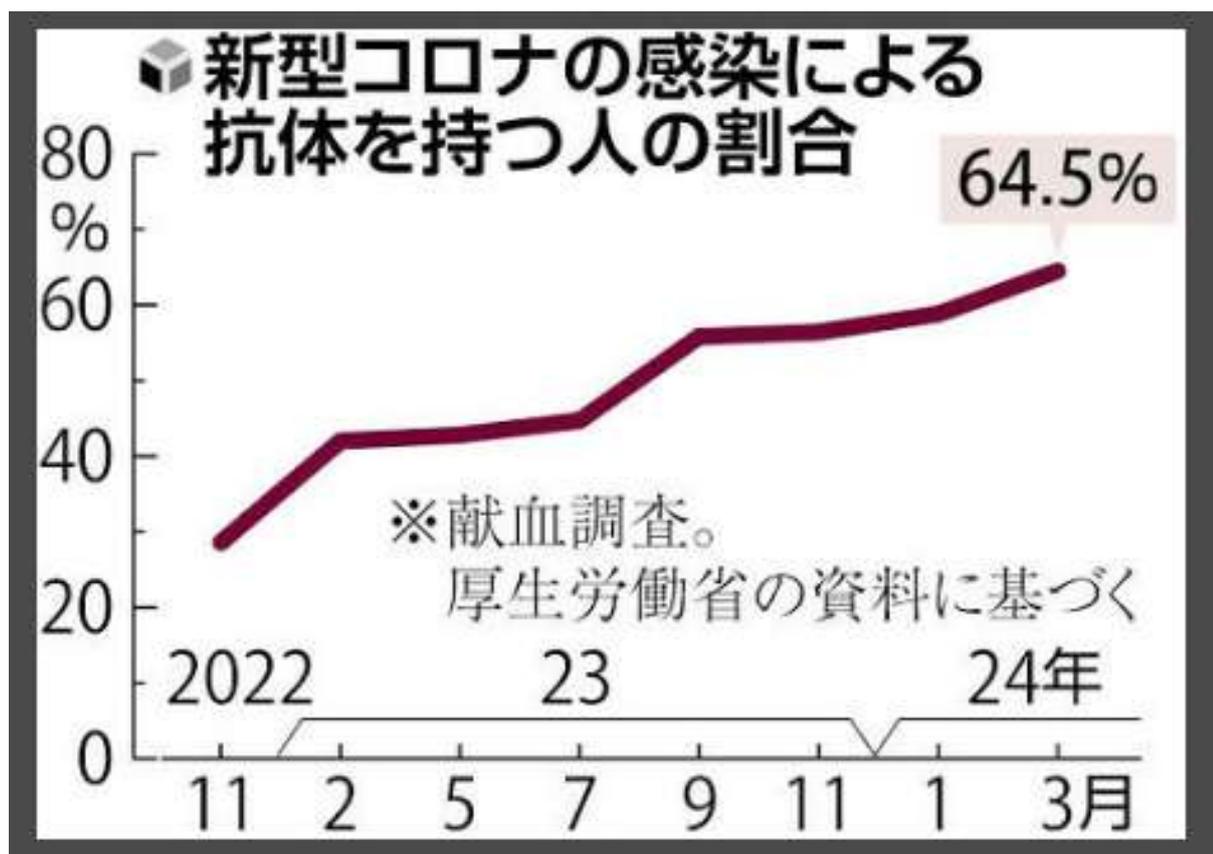


新型コロナ抗体、6割超が保有…高齢者は依然低く専門家「今後もワクチンが必要」

5/29 読売新聞



新型コロナウイルスに過去に感染したことを示す抗体を持つ人の割合が、厚生労働省が3月に行った調査で6割を超えたことがわかった。年代別に見ると高齢者の抗体保有率は依然として低いため、専門家はワクチン接種で免疫を強化する必要があると指摘している。

献血した1万8048人（16～69歳）を対象にした調査では、保有率は64・5%で、1月の前回調査（58・8%）から5・7ポイント上昇した。年齢別では、最も高いのは16～19歳の80・5%で、最も低いのは60～69歳の51・6%だった。また、全年代を対象にした、診療所で採血された検体を分析する別の調査では60・7%となった。5～9歳の90・6%が最も高く、10～49歳は7割超で、70歳以上は3割台だった。

調査結果は厚労省の専門家部会で報告された。部会長の脇田隆宇・国立感染症研究所所長は「高齢者の感染割合が低い状況が読み取れる。今後もワクチン接種が必要だ」とコメントした。

新年度スタートのコロナワクチン定期接種、自己負担は最大7000円

2024年度から始まる新型コロナウイルスワクチンの定期接種について、厚生労働省は15日、メーカー各社から価格を聞き取った結果、1人あたりの接種費用が1回1万5300円程度となる見込みを公表した。自己負担額は最大7000円とし、国は差額分の8300円を市町村に助成する。市町村が独自に補助する場合があり、7000円よりもさらに少なくなる可能性がある。定期接種は65歳以上の高齢者と重度の基礎疾患を持つ60～64歳の人を対象だ。これ以外の人には「任意接種」で、原則全額自己負担となるが、費用は医療機関などによって異なる見込みだ。